# 仙台・宮城元気ニュース

～仙台地域の明るい元気な情報を発信！～

平成２９年度第１号（通算第４４号）
平成２９年４月２８日発行－隔月発行－

【発行】仙台地方振興事務所

## ●今月号の元気な話題●

＊県南浜街道地域（名取市，岩沼市，亘理町，山元町）外国語観光案内映像を作成しました【地方振興部】・・・・・・・・・・1

＊被災地で芽吹いたアセロラで最優秀賞【農業振興部（亘理農業改良普及センター）】・・・・・・・・・2

＊農事組合法人U.M.A.S.Iの穀類乾燥調製・共同育苗施設が完成しました【農業振興部】・・・・・・・・・・・・・・・・・・2

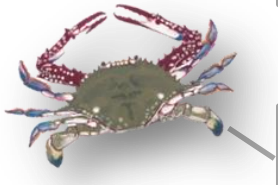
＊亘理，大内小学校のさけ稚魚の放流体験学習が行われました【水産漁港部】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3

＊再び荒浜地区の憩いの場所へ　蛭塚（ひるづか）植樹祭の開催【林業振興部】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3

＊復旧・復興への更なる進展に向けて～新たに２地区で太陽光発電所が始動～【農業農村整備部】・・4

## みやぎ水産の日
## ●今月のおすすめ●

**【あさり】**
おすすめ時期：４月



**【がざみ】**
おすすめ時期：５月～７月

## 県南浜街道地域（名取市，岩沼市，亘理町，山元町）外国語観光案内映像を作成しました

【地方振興部】

東日本大震災で甚大な被害を受けた仙台管内沿岸部，特に名取市，岩沼市，亘理町及び山元町では観光客入込数の回復が遅れているため，仙台地方振興事務所では，経済効果が見込まれる着地型観光の推進に向け，魅力的な自然や観光施設，復興の様子などについて紹介した動画を制作しました。

英語圏観光客向けに英語版と，宮城県がサポートデスクを設置し誘客に力を入れている台湾人観光客向けに台湾語版を作成しました。また，日本人観光客にも動画を楽しんでもらえるように，英語のナレーションに日本語字幕を入れた動画も作成しており，現在，宮城県広報課が発信している県政動画チャンネルのインターネット広報資料室でＹｏｕＴｕｂｅ動画として公開しています。その他，仙台地方振興事務所ホームページや仙台・宮城観光キャンペーン推進協議会ホームページで発信しています。

観光案内映像内容の紹介写真
（左から）日和山，金蛇水神社，イチゴハウス，悠里館

# 被災地で芽吹いたアセロラで最優秀賞

【農業振興部（亘理農業改良普及センター）】

起業活動部門最優秀賞に輝く伊藤さん

２０１７農山漁村パートナーシップ推進宮城県大会が東北大学川内萩ホールで開催され，亘理町でアセロラの栽培と加工品開発に取り組んでいる伊藤あけみさんが，起業活動部門で最優秀賞に輝きました。

伊藤さんは，東北で初めて熱帯果樹であるアセロラを栽培し，規格外品を活用するため「アセロラで酢」をはじめ，ジャムや冷凍ピューレなどの加工品開発に取り組み，亘理町の特産品として広く知られるようになりました。

東日本大震災では津波により大きな被害を受けましたが，新たに芽を出したアセロラの苗を増殖し，生産・加工を再開しました。「アセロラで酢」は復興支援として注文が増えており，全国各地へ発送されています。また，新商品の「アセロラジンジャーシロップ」を復興支援企業との連携により開発し，販売しています。これらの取り組みはマスコミなどにも取り上げられ，震災復興の一翼を担いました。

こうしたアセロラ栽培の取り組みや加工品の開発が評価され，今回の受賞につながりました。

# 農事組合法人U.M.A.S.Iの穀類乾燥調製・共同育苗施設が完成しました

【農業振興部】

名取市植松地区の農事組合法人U.M.A.S.I（ウマシ，代表理事　大友久敏氏）は，平成28年1月に法人化された経営体です。法人の前身は大豆の集団転作に取り組む植松機械利用組合であり，集落営農をより一体的に進めるため法人化を図りました。法人の名称であるU.M.A.S.IはUematsu（植松）Mechanization（機械化）Agricultural（農業）Systematic（組織）Integration（統一）の頭文字を取ったものです。

同法人の特徴は，実働部隊の平均年齢が40歳代前半と非常に若いことであり，継続的な営農の展開が期待されます。

完成した穀類乾燥調製・共同育苗施設

現在の経営面積は水稲60ha，大豆33haですが，3年後には水稲100ha，大豆35haを目標とし，農業経営の積極的な拡大を図っていく計画です。この目標を達成するために，平成28年度産地パワーアップ事業を活用し，穀類乾燥調製施設，水稲共同育苗施設及び農業用機械の整備が完了し，平成29年4月に竣工式が開催されました。

これにより，U.M.A.S.Iの営農基盤の強化が図られ，植松地区の担い手として，更なる営農活動の活性化が期待されます。

# 亘理，大内小学校のさけ稚魚の放流体験学習が行われました

【水産漁港部】

毎年，秋から冬にふるさとの川を目指して帰ってくるさけは，沿岸漁業だけでなく，はらこ飯など本県の食文化には欠かせない重要な水産資源です。このさけ資源の維持増大を図るため，管内の６つのふ化場でふ化放流事業を行っています。今シーズンは遡上親魚の減少による種卵の確保や少雨による飼育水不足で稚魚の飼育に苦労しましたが，関係者の努力により，各ふ化場とも計画どおり放流できる見込みとなっています。

さけ稚魚飼育の様子

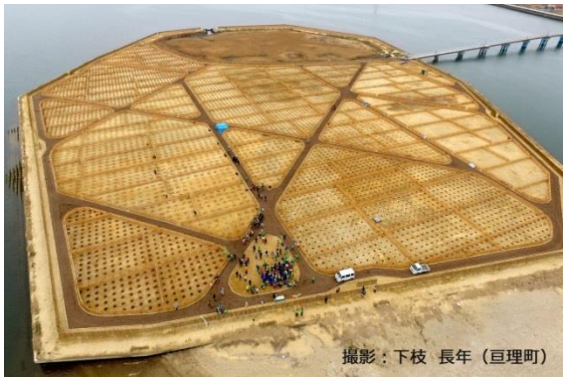
亘理小学校のさけ稚魚放流の様子

このような中，４月２１日に亘理町立亘理小学校５年生１４６名が亘理ふ化場で育てたさけ稚魚を，４月２７日に丸森町立大内小学校４，５年生２３名が丸森ふ化場で育てたさけ稚魚を放流する体験学習を行いました。参加した児童は，ふ化場で飼育しているさけ稚魚の餌やり体験と宮城県漁業協同組合仙南支所長や水産漁港部職員からさけの生態などの話を聞いたあと，４年後に阿武隈川に帰ってくることを期待して放流しました。

なお，管内のふ化場のさけ稚魚の放流は５月初めまで続く予定です。

# 再び荒浜地区の憩いの場所へ　蛭塚植樹祭の開催

【林業振興部】




蛭塚植樹祭上空から

東日本大震災の津波で流出した亘理町荒浜地区鳥の海湾内にある島「蛭塚（ひるづか）」で，平成29年4月8日に県と町，地元で防災林再生を担うNPO法人「わたりグリーンベルトプロジェクト」が主催となり蛭塚植樹祭が開催されました。この植樹祭は，県が平成27年度から実施している防災林造成事業の手伝いを行いたいと地域住民から要望を受けて実現したもので，当日は荒浜地区の住民を中心に町内外から130名の参加者があり，コナラやシラカシ，シロダモなど地域の自然植生として確認されている広葉樹の苗木約1300本を1本1本丁寧に植樹しました。

震災前の蛭塚は自然環境を利用した散策路が整備された島で，マリンレインボーブリッジ（橋）により誰でも自由に行き来ができたことから，荒浜地区を訪れた人々の憩いの場所となっていました。今回，植樹された苗木がすくすくと成長し，1日も早く地区の憩いの場所へ戻るよう，県としても引き続き適切な保育を行っていきます。

植樹の様子

# 復旧・復興への更なる進展に向けて
# ～新たに２地区で太陽光発電所が始動～

【農業農村整備部】

農村地域復興再生基盤総合整備事業により新たに整備された，「岩沼藤曽根地区」・「亘理・山元第２地区」の太陽光発電所において，３月１日から発電が開始されました。
津波による被災を受けた土地改良区管内では，広域的な地盤沈下の影響による排水経費と，復興事業により新たに造成される農業水利施設の維持管理経費の増大による，農家の負担増が懸念されています。

こうしたことから，太陽光発電施設を整備し，発電した電力を電気事業者に売電した収入により，農業者が新たに負担することとなった経費に対処し，将来にわたり安定的な農業経営の実現を図ることとしています。同時に，防災集団移転促進事業で市町が取得した住宅等の移転跡地を発電施設用地として有効活用しており，市町の復興計画に即した土地利用の実現にも寄与しています。

太陽光発電施設の規模はそれぞれ，「岩沼藤曽根地区」が発電出力１，９００kW，太陽電池モジュール９，９９６枚，「亘理・山元第２地区」が発電出力１，４５５kW，太陽電池モジュール８，３４４枚となっており，２つの発電所の年間発電電力量は，一般家庭約１，１００世帯の年間消費電力量に相当します。本発電所は現在，名取土地改良区と亘理土地改良区で管理と運営を行っています。

本発電所の有効活用により，今後津波被災沿岸部が震災前以上に発展していくことが期待されます。

「岩沼藤曽根地区」太陽光発電所

「亘理・山元第２地区」太陽光発電所

問合せ先：宮城県仙台地方振興事務所地方振興部（白石）
TEL：022-275-9140　FAX：022-275-0296　E-Mail：sdsinbk2@pref.miyagi.lg.jp
HP：http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/sdsgsin-e/
※次号は平成29年6月下旬発行予定です。